

海外研修のご報告

鍼灸サイエンス学科 台湾研修

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 准教授 鈴木 聡・准教授 高木 健

3月10日(日)～14日(木)の5日間、鍼灸サイエンス学科2年生10名、3年生5名、鍼灸治療センター卒業後研修生1名の計16名が台湾研修に参加しました。教員2名(鈴木と高木)と添乗員2名で引率しました。

鍼灸サイエンス学科はこれまでも2年に1回のペースで、天津、北京、上海、台湾で研修を行ってきましたが、今回は、提携校である中国医薬大学(台湾・台中市)で行いました。中国医薬大学は平成29年にも研修を行っており、今回が2回目の研修訪問です。

1958年創立の中国医薬大学は、イギリス大学評価機関クアクアレリ・シモンズ発表の2023世界大学ランキングで251-300位に入る優れた医療系総合私立大学です。研修先の中医学部(漢方医学部)は最難関の1つで、合格するには台湾の受験生の成績上位2%に入る必要があります。

大学では東洋医学の診察法である舌診と脈診、眼疾患に対する特殊鍼治療の講義と実技指導を受けました。また、十全大補湯に関する生薬について学び、実際に煎じたものに素麺を加えて薬膳として食しました。さらに、附属博物館で伝統医学に関する展示物を見ながら古代から現代までの歴史や変遷を学びました。

附属病院と関連クリニックでは様々な疾患に対する鍼灸や漢方診療を見学し、鍼灸治療の適応の広さを目の当たりにしました。また、希望者は実際に診療にあたる医師から現地で行われている鍼治療体験を受けました。

研修の最後に中国医薬大学から参加者一人ひとりに研修修了書が授与されました。



大学教学楼前にて



大学病院鍼灸外来前にて

参加者のアンケート結果から、「日本とは異なる新たな知識・鍼技術・治療法が学べた」「台湾の学生と楽しく交流できた」「初めての海外でも教員や添乗員のおかげで安全で快適に過ごせた」「台湾文化にたくさん触れさらに好きになった」「たくさんの刺激を受け今後の学習意欲向上につながった」などの意見が見られ、総じて有意義かつ満足した研修を行うことができました。

看護学部・国際交流委員会主催 ハワイ看護研修

看護学部 看護学科 教授・看護学部国際交流委員会 田中 和奈

3月9日(土)～14日(木)の日程で、看護学部国際交流委員会主催のハワイ看護研修を開催し、1年生から4年生までの看護学科の学生14名が参加しました。研修期間中は、オアフ島の医療施設や福祉施設等5施設を見学し、現地で活躍する日本人ナース・プラクティショナーの講義を受講しました。

ハワイ大学医学部のシムティキ・シミュレーションセンターでは、シミュレーターを使用したフィジカルアセスメントやディスカッションを行うグループワーク演習に参加しました。グループワークでは、上級生が下級生をフォローしながら演習に取り組む姿が見られました。

日本人看護師の方からは、アメリカの医療制度やナース・プラクティショナーの役割、多文化看護についての講義を受けました。多くの移民が生活するハワイ州では、人種によって健康に対する意識や健康問題に違いがあるため、看護師はそういった特徴を踏まえて対応することが重要だということを知りました。



海外渡航は今回が初めてという学生が大半でしたが、英語で質問を考え、積極的に質問をしていました。6日間という短い期間ではありましたが、異文化での生活体験やハワイで活躍されている日本人看護師の方から話を聞き、医療施設を見学できたことは、グローバルな視点から医療や看護を考える良い機会になったのではないかと思います。

COVID-19の影響で海外研修が中止となっていました、ようやく再開することができました。看護学部の国際交流委員会では、学生の皆さんに関心を抱いてもらえるような国際交流活動を今後も企画していきたいと考えています。

